

失われた身体の一部再現

乳房を再現して、好きだった温泉の大浴場に入りたい。指を作って仕事で初対面の相手の目線が気にならないようにしたい。そんな思いに寄り添い、エビテーゼ製作を通じて依頼者の生活の幅を広げている。

大仙市協和境の今野歯科技工所で、歯科技工士の西宮知里さん(40)＝大仙市＝が、病気や事故により、または先天的に身体の一部が失われた人のため、その欠損部を補う人工装具「エビテーゼ」を製作している。乳がんで切除した

大仙市 今野歯科技工所・西宮さん

エビテーゼはシリコーン製で、肌になじむしつとりとした手触り。取り外しが可能で、装着したまま運動や入浴ができる。西宮さんが作ったサンプル品は、肌の色むらやしわ、血管の透け具合まで精巧に実物に寄せられている。

西宮さんは仙北市出身。手芸が好きで手先の器用さを役立てられる職に就こうと高校卒業後、仙台市の歯科技工士専門学校に進んだ。帰郷して県内で歯科技工士をしていた数年前、全日本エビテーゼ連盟会長の萩原圭子さんの講演を聞き、歯

科技工士としての経験をエビテーゼ製作に生かせること知った。「女性の立場から乳がんで切除した乳房の再現や、外見の悩みの解決に役立ちたい」と一念発起。子育ての合間を縫って、大仙市から車で群馬県の萩原さんが主催するスクールに2年ほど通い、エビテーゼ製作の技術を学んだ。2023年12月、歯科技工士として働いていた今野歯科技工所が、西宮さんの思いを受け入れ、敷地内に一戸建ての製作室「エビテーゼ秋田」を開設。これまでに30〜70

人工装具、依頼者に寄り添う

代の男女8人のエビテーゼを製作した。作った部位は乳房6人、指1人、耳1人。「県外に行かないと作れなかったから」と相談に来てくれた人もいたという。

製作期間は最短で1カ月半ほど。最初にろうを型取りする。着色の工程でも依頼者に立ち会ってもらう。依頼者の肌と見

比べながら、赤、青、黄をベースにパレットで色味を調整。先の細い絵筆で点描画のように少しずつシリコーンに色をのせていく。

対面での作業は少なくとも4回ある。大事なのは、依頼者とのコミュニケーション。西宮さんは「温泉で使いたい人もいれば、ダンスで使いたい人もいる。必要とする場面や困り事を聞き取りながら作ります」と話す。

がん患者の会で聞いた。当事者の体験を踏まえて提案したり、がんイベントで見た看護師らの聞く姿勢を参考にしたりしている。

大仙市の50代女性は、1年ほど前から西宮さんが作った乳房のエビテーゼを使っている。初めて装着した時を「15年前に切除した胸が戻ったみたいでうれしかった」と振り返る。切除後、下着の下に市販のパッドを入れて生活していたが、摩擦による痛みやパッドがずれる不快感を感じていたという。「痛みもずれもなくなった。温泉にも入れるようになった。作って良かった」と話す。

「完成品を初めて着けて、お客さんの表情がぱっと明るくなった時、やりがいを感じます」と西宮さん。病気などによる外見の変化に悩む人を支えるケアを「アピアランスケア」と呼ぶ。これまでの依頼者には70代の男性もいた。西宮さんは、アピアランスケアを必要としているものの存在を知らない人がまだまだいると感じている。「外見の悩みをひそかにずっと抱えている人がいる。そんな人たちにエビテーゼを届けられるよう、発信していきたい」

毎年行室の一環校内の「し、交美湯沢置護者か確認して止まっきは、確認し

た。見

た。見

た。見

た。見



エビテーゼ製作に取り組む歯科技工士の西宮さん

西宮さんが製作したサンプル品のエビテーゼ。肌の色むらやしわまで精巧に再現している

自転車 安全に乗ります

羽後町

羽後町 羽後町 羽後町

羽後町 羽後町 羽後町